

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 113

学校名・団体名	霧島市立青葉小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	読書を楽しみ、図書資料を学習に活かせる児童の育成

〈活動・研究の意義〉

これからの時代を生き抜く子供たちには、情報を取捨選択し、活用しながら他者と協力して、主体的に課題を解決する能力や多様な価値観をもつ人々と協調しながら、新たに出会う諸課題に対して創造性を発揮し解決を図る態度を育成する必要がある。そこで、読書を通して、言語力を発達させて考える力を鍛え、想像力と批判力を伸ばして意欲的な人生観を創り上げさせたい。また、図書資料を活用させることで、様々な情報から有用な情報を得るなどの力を身に付けさせたい。

〈活動報告〉

[活動に至る経緯]

本校は、平成9年度に開校し、本年度、創立22周年という比較的新しい学校である。読書活動に関しては、平成10年に発足した親子読書会「おはなしの森」と読み聞かせ活動を連携したり、PTAの協力を得て平成20年度に学校図書館検索システムのコンピュータ化を導入したりして、子供たちの読書意欲を向上させる取組を積極的に実践してきた。

しかし、平成25年度までは、年間の読書量の少ない不読傾向の子供が多いことや生涯を通して読書好きな人間を育てる意欲的な読書活動を行おうとする子供の姿には程遠いという課題があった。平成26年度、現学校司書が着任してから、学校図書館の大きな研究主題を「子供たちが楽しく取り組む読書活動の試み～子供たちが進んで図書館に通い、子供たちの読書冊数を増やし、読書の楽しさを味わわせ、生涯を通して読書好きな人間を育てる実践と読書環境の整備～」と設定し、様々な読書活動の実践に取り組んできた。さらに、教科等における図書資料等の活用については、今一步のところがあった。

[時期]

平成29・30年度、県研究協力校として「読書指導」の研究を行うことにした。

[活動内容]

1 研究仮説

- (1) **仮説Ⅰ** 各教科等で、本や図鑑、新聞、資料等を読むことを通して、知識や教養の幅を広げることができれば、読書の良さを実感し、情報活用能力が高まるのではないかと。
- (2) **仮説Ⅱ** 適切な読書環境を整えれば、児童が楽しみながら主体的に読書活動に取り組む姿勢を身に付け、読書の日常化が図られるのではないかと。
- (3) **仮説Ⅲ** 児童が読書活動で得た知識や教養を、共有、共感してもらいたいという欲求に基づいて、自分なりのこだわりとして他者と伝え合うことができれば、表現力が高まるのではないかと。

2 研究の実践

- (1) 授業による実践（実践例：6年 総合的な学習の時間「見つめよう、将来の夢」）

豊富な資料で、調べ学習を活性化したい！

学校図書館の機能の一つとして、「学習情報センター」の役割がある。これまでも国語科をはじめとして、主に社会科や理科でも学習のテーマに沿って図書資料を使っている。今回は、子供たちが現在抱えている将来の夢、子供たちが就きたいと思っている職業についての調べ学習を行った。学校司書や校長の尽力で、霧島市立図書館をはじめ、近隣の中学校、高校そして県立図書館（鹿児島市）にもお願いをして、職業に関する図書資料を数百冊揃えてもらった。



子供たちは、学級全体で職業の何を調べるのかについて調べる観点を設定し、図書資料に向き合わせるようにした。数多くの図書から効率よく情報を取捨選択できるように情報量の目安を一覧表にして子供たちに持たせるようにした。また、書名や該当ページ番号が書き込めるワークシートを準備し、次時からの詳しい調べ学習に活用できるようにした。研究授業では、観点に沿って自分の職業について詳しく書かれている図書を選んでワークシートに書き込むことができていた。また、同じ夢（職業）を調べようとしている友達と情報交換をしたり、観点に沿っているかを相談し合ったりする姿が見られた。しかしながら、職業によっては情報の少なさ、偏りがあったことは否めない。授業終盤では、図書資料の限界性を話し合い、インターネットを利用した調べ学習への見通しをもたせることができた。



小学校としては、職業調べ関連図書を県内一揃えることができたことと自負している。今後、インターネットとの共存、併用を考慮した指導計画へと発展させていきたい。

わかたけ 情報収集ワークシート

6年()組 名前()

調べる職業:

調べる観点:

書名(記号)	読もうなページ	自分の読んだページ数
B	23~25, 31	4
G	45, 57, 70	1

(2) 定期的に行っている取組

ア 読書目標冊数の設定 (低学年 140 冊, 中学年 120 冊, 高学年 100 冊)

イ 図書館オリエンテーションの実施 (4月全学級実施)

ウ 「朝の読書」の実践

始業前の8:05から8:15(10分間) 毎日実施

エ 読書月間等の取組 (6月・10月・2月)

オ 読書タイムの取組 (8:30~8:45の15分間)

カ 保護者・親子読書会・図書館ボランティアによる読み聞かせ

キ 図書館ボランティアによる本の修繕

ク 担任・交流学級(担任・児童同士)による読み聞かせ

ケ 図書室だより(学校司書:毎月1回以上, 図書委員会:学期1回)

コ 毎月23日を「家読(うちどく)の日」と設定し、家庭で親子一緒に読書を実施(感想等を提出)



[始業前の朝の読書]

(3) イベント的に行われている取組

ア 読書月間等の取組 (ビンゴゲームは毎回実施)

○ 読書旬間 (6月) → ポップ作り

○ 読書月間 (10月) → ビブリオバトル

○ 読書週間 (2月) → 放送 DE ビブリオバトル, 絵本メニュー給食

イ 読書タイムの取組 (8:30から8:45の15分間)

○ 担任による読み聞かせ (4・9・1月)

○ ブックトーク, アニマシオン (5・11・12・1月)

○ 学年部での読み聞かせローテーション (5月)

○ 交流学級の児童同士の読み聞かせ (6・11月)

○ 保護者による読み聞かせ(わくわく読書) (6・10・11・2月)

○ ボランティアによる読み聞かせ (7・12・3月)

○ 親子読書会による緑陰読書 (8月)

○ 読書集会 (10月)

○ トレジャーブック (2・3月)



[職員による絵本ライブ]



[絵本メニュー給食「おでんもおんせん」]

[子供たちへの効果]

【成果】

ア 児童の読書意欲が増し、読書冊数が伸びた。年間の読書冊数の少ない児童の読書冊数も伸びた。

イ 青葉小学校独自の読書指導計画が確立できつつある。

ウ 家庭との連携により、保護者の読書への関心も高まり、家族ぐるみの読書の輪が広がってきている。

【課題】

ア 図書資料の活用を国語科以外でも更に積極的に進めていきたい。

イ 十分な図書資料を確保するため、他校や公立図書館等と連携を更に図っていきたい。